

1 児童の現状分析

児童アンケートによると、目標をもち、問題の解決方法を考えながら学習に取り組んでいる児童が多い。また、7月に実施した「まなびポケット学力調査(CBT)」によると、国語では言葉のきまりや漢字に関する問題、算数では与えられた場面を□を用いて式に表す問題や、四捨五入の考えを使って答えを見積もる問題などに課題がある。

2 各教科等における授業改善の視点

	授業改善の視点
国語	○書いたり話したりする場面では、漢字や言葉についての知識を生かして表現することを意識させる。 ○友達と対話的に学ぶ時間を意図的に設定することで、自分の考えや感じたことを表現する力や相手に意図が伝わるように話す力を向上させる。
社会	○資料に向き合う時間を確保し、児童の気付きによって学習問題を設定する。 ○学習問題について調べたりまとめたりする場面では、タブレット型パソコンを活用して情報収集を行ったり、「Googleスライド」に整理させたりして、学びを深められるようにする。
算数	○問題の解き方を考えるときに、既習事項を意識させたり図を用いて表現させたりして、筋道を立てて思考できるようにする。また、その考え方を交流する時間を設けて児童同士で対話させることで、数学的な思考力を育てる。
理科	○事実を確かに把握させるために、タブレット型パソコンを用いて実験観察結果を記録させる。ノートに表現した自分の考えを「スクールタクト」や「コラボノートEX」などで互いに見合う。根拠を的確に述べている児童のまとめ方を参考にし、論理的思考力の育成を図る。
音楽	○児童自身が思いや意図をもって表現活動ができるようにするために、児童の意見を取り入れながら表現活動を行う。タブレット型パソコンを用いて振り返りや曲の表現方法についての考えを共有させる。
図画工作	○制作して終わりではなく、タブレット型パソコンを利用して鑑賞や振り返りがきちんとできるようにする。また、自分がイメージしたことや感じたことについて友達と対話させることで、表現活動や鑑賞活動がより深い学びになるようにする。
家庭	○調理や裁縫、ミシンなど初めて行う作業については、タブレット型パソコンや実物投影機などの機器を有効的に使って、具体的に説明を行っていくことで、安全につまずきがないよう、技能の定着を図る。実習では互いに学び合えるよう対話の時間を設ける。
体育	○タブレット型パソコンを用いて、自分や友達の運動の様子を記録させる。それを分析し、自分や友達の動きについて話し合わせることで課題を客観的に捉えさせたり、友達の動きの良さを見付けさせたりする。授業の終わりに確実に振り返り、積み重ねさせることで、よりよい運動ができるよう意識付けさせる。
外国語	○毎時間デジタル教科書を活用し、十分に音声に慣れ親しませた上で、友達との対話活動に取り組みさせる。タブレット型パソコンを調べ学習や撮影機能による発表練習等に活用させ、個別最適化された学びを実現する。
道徳	○話し合い活動を通して、互いの考えを認め合ったり、自分の考えを深めたりできるようにする。また、振り返りの時間を設けることで、これまでの自分の生き方やこれからの生き方について考えられるようにする。
総合	○年間指導計画をもとに、他教科とも関連付けながら、児童が主体的に課題解決をしたくなるような導入を心掛ける。情報収集・整理分析・まとめ・表現の活動を一つのサイクルとして行う。その際、タブレット型パソコンを有効的に使用し、プレゼンテーション能力も育む。